

令和 8 年度第 1 回東松山市地域自立支援協議会全体会次第

令和 8 年 7 月 2 9 日（水）午後 2 時
東松山市総合会館多目的ホール B

1 開会

2 あいさつ

3 議事

（1）各連絡会議からの報告

- ①障害者進路支援連絡会議
- ②障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議
- ③医療的ケア児者を支えるネットワーク会議
- ④地域生活支援拠点等連絡会議

（2）具体的事例を通じて地域課題を考える

～各取組に関連する事例の共有～

（3）その他

4 その他

障害者進路支援連絡会議	
プロジェクト 設立の経緯	期間が決まっている学校生活の中、障害のある生徒の高校卒業後における進路選択の一助になるための情報提供や、学校が行う進路指導の補完を行うことを目的に、「特別支援学校等の生徒の進路選択を考えるプロジェクト」としてスタートした。その後「障害者進路支援連絡会議」として設置される。
今年度の 目標及び進捗	今年度目標 1.『キャリアデザインフォーラム』の開催 進路選択の考え方や、進路選択の流れについてなど情報提供を行う。 2.『中学生による職業体験』の開催。 実際の企業で働く体験の場を提供する。 東松山地域におけるまちづくりの視点に立った「働く体験の場づくり」を促進する。 3.両企画を通し、参加者からの意見や感想をとりまとめ、 今後のフォーラムや職業体験の在り方について、 また、より実効性のある情報提供の在り方について検討する。
	進捗
	1.定例会議開催 令和 8 年 4 月 15 日(水)、6 月 10 日(水)、※開催 8 月 5 日(水)、10 月 14 日(水)、12 月 9 日(水)、 令和 9 年 2 月 10 日(水)※開催予定
	2.キャリアデザインフォーラムの開催 進路選択に関わる情報提供を行うことで、保護者が進路について考えるきっかけとし、早い時期から情報を得て、当事者の成長や進路選択を支える仕組みを作る。 ・開催日：令和 8 年 7 月 15 日(水) 10 時 00 分～12 時 00 分 ・内容：第 1 部「障害福祉サービスとその利用について」 第 2 部「障害者雇用にチャレンジした体験談」 第 3 部「教えて！ブース別相談会」 協力企業 東松山紙器工業(株) (株)武蔵野フーズカムス第二工場 (株)ワールドツール (株)ヤオコーハーモニー ・参加申込者：47 名 ・当日参加者：40 名 3.中学生による職業体験事業について 障害のある方の働く体験の場づくり。 本人が実際の仕事を見て、体験してもらうことで、働くことはどんなことかを知ってもらう機会として、保護者が子供の体験する様子を見ることで、進路を選択するにあたっての情報を得ていただくことを目的として実施を予定。 ・開催日：令和 8 年 8 月 24 日(水) 9 時 00 分～13 時 00 分 ・協力企業

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① (株)ベルク ベルク砂田店(品出し、陳列等)② エスビー食品(株)(ビン解体)③ (株)しまむら アベイル高坂店(ハンガーかけ、たたみ、清掃)④ 野口精機(株)(製造補助)⑤ 伊田テクノス(株)(パソコン入力作業等) |
|--|

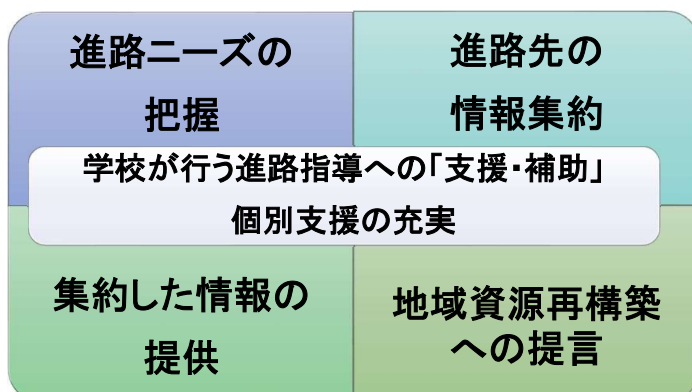
・定員:10名(令和8年7月16日時点で5名応募)

・対象:市内小中学校の特別支援学級や、特別支援学校に通学している児童及び保護者。

令和8年度 東松山市地域自立支援協議会全体会 「東松山市障害者進路支援連絡会議」

令和8年7月29日

進路支援連絡会議の役割と目的



情報共有

- 定期的に連絡会を開催し、関係機関同士の連携および情報の共有を図る。

コンセンサスの形成

- 進路に関し、地域の課題となっていることについて、その解決に向けて議論し、そして提言する。

コンセンサスの発信・共有

1人ひとりの希望や意見の共有

- 情報発信や地域交流を目指した『キャリアデザインフォーラム』を開催する。
- 働くことや働くために必要なことを知り、将来職業を選択するにあたっての興味や適性を確認すること、東松山地域で「働く体験の場づくり」を促進することを目指した『中学生による職業体験』を開催する。

令和8年度の目標

●定例会議の開催

4月15日、6月10日、8月5日、10月14日、12月9日、令和9年2月10日
計6回の連絡会議の開催

●キャリアデザインフォーラムの開催

福祉サービスや一般就労など、進路選択の幅を広げていけるよう情報提供を行う。
今年度のテーマ「障害のある生徒の働くことについて」
広域展開を見据え近隣町村への周知。

●中学生による職業体験の開催

進路選択の一助となるよう、体験の機会の場を提供。
「働く」を応援できる地域づくりを行う。

●両企画を通し、進路選択を補完する方法について、より実効性の高い情報提供の在り方について協議する。

令和8年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」について

【目的・趣旨】

年度初めの時期に進路選択に関わる情報提供を行うことで、保護者が進路について考えるきっかけとし、早い時期から情報を得て、各機関のサポートやサービスにより当事者の成長や進路選択を支える仕組みを築くことの重要性を理解する場とする。

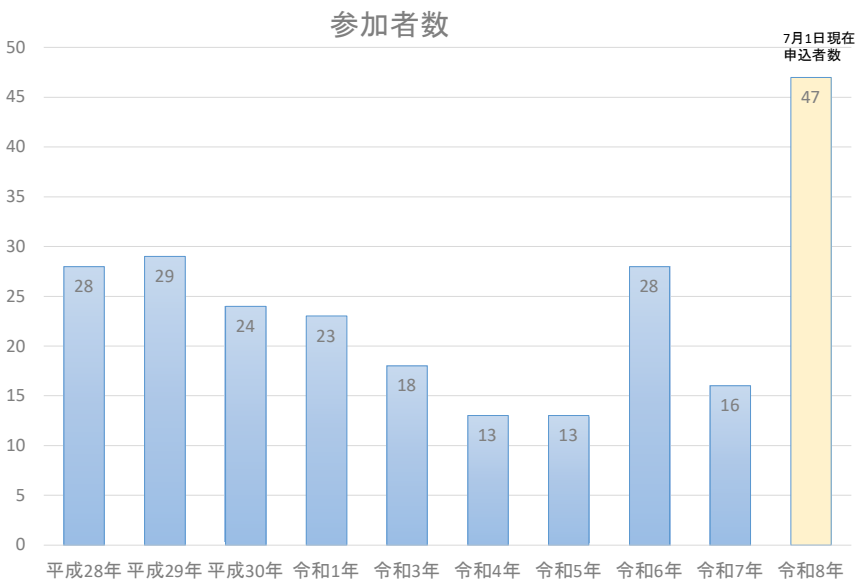
- | | |
|-------|--|
| 【日時】 | 令和8年7月15日(水) 10時00分～12時00分 |
| 【会場】 | 東松山市市民文化センター大会議室 |
| 【対象者】 | 比企地区の小・中・高校に在籍する児童・生徒の保護者で、
障害福祉サービスや障害者雇用に関心のある方 |
| 【内容】 | ・第1部 講演「障害福祉サービスとその利用について」
比企地域基幹相談支援センター 林 茂史氏
・第2部 障害者雇用にチャレンジした体験談
㈱ヤオコーハーモニー マネジャー 菅原美沙氏
先輩当事者 Kさん(23歳)
・第3部 教えて！ブース別相談会 ※今年度【企業ブース】を新設 |

令和8年度キャリアデザインフォーラム

「進路選択に役立つ情報交換会」 参加者について

- 周知方法について

 - ・東松山市教育委員会、学校校長会を通し、保護者連絡ツール「tetoru(テトル)」を利用。市内、小中学校に通学する児童の保護者全員へ案内。
 - ・市外の対象者について
比企地域自立支援協議会の幹事会を通し、各町村へ周知を依頼。
(周知の仕方は町村に任せている)

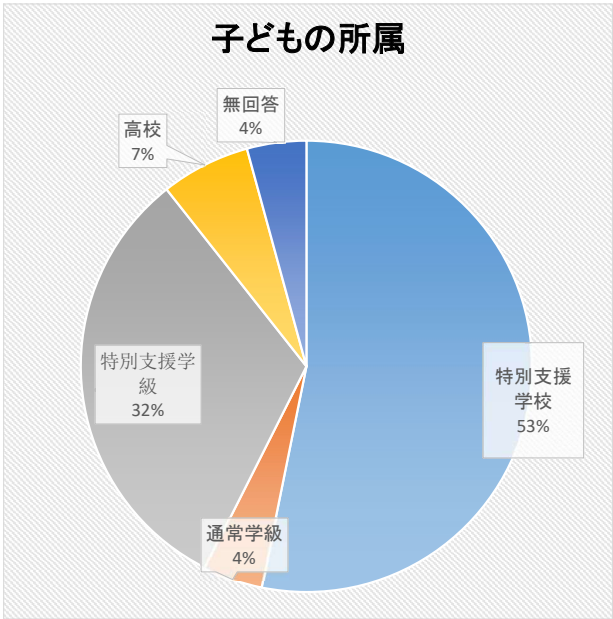


5

令和8年度キャリアデザインフォーラム

「進路選択に役立つ情報交換会」 参加申込者について

参加申込者47名（令和8年7月1日現在）

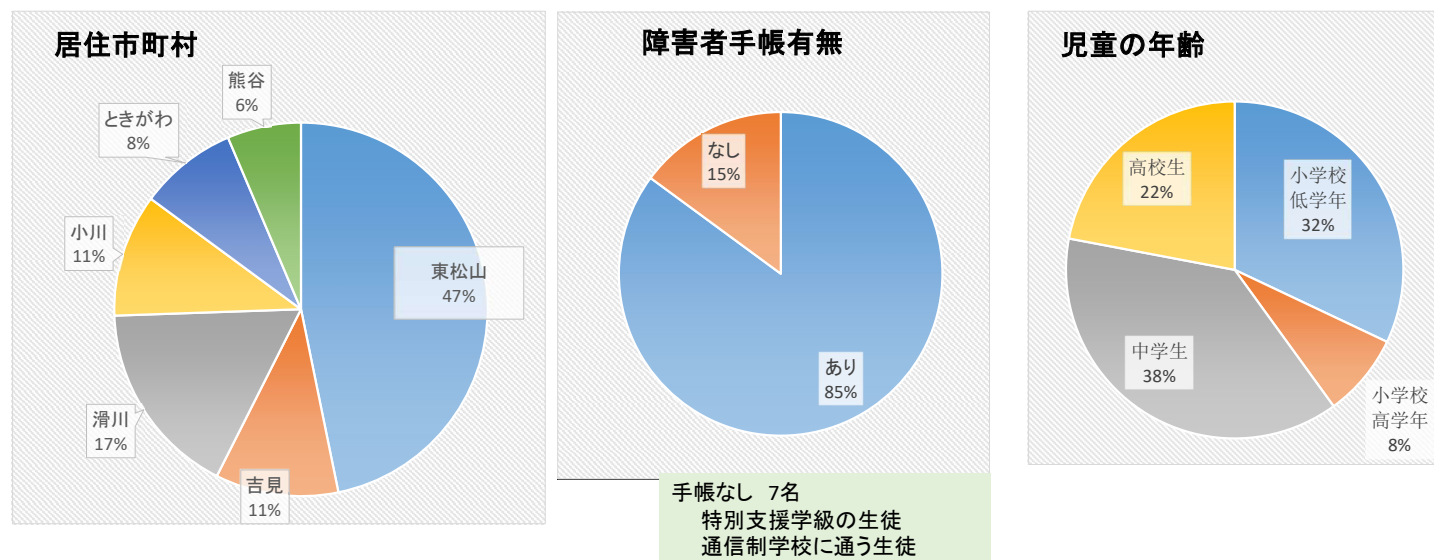


周知拡大に伴い、新しい層からの参加

市内特別支援学級 教員	1名
市内通常学級	1名
市外特別支援学級	11名
高校	3名

令和8年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」 参加申込者について

参加申込者47名（令和8年7月1日現在）



令和8年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」 内容について

●内容について

- ・第3部ブース別相談会において【企業】ブースを新設

東松山紙器工業株式会社 様

株式会社ワールドツール 様

株式会社武蔵野フーズカムス第二工場 様

株式会社ヤオコーハーモニー 様

4社に参加協力いただき、障害者雇用の状況についての説明や、
保護者と意見交換する場を提供。

- ・相談申込書について

参加者のアフターフォローを目的とし、キャリアデザインフォーラム後に
個別相談対応。

令和8年度キャリアデザインフォーラム 「進路選択に役立つ情報交換会」

令和8年7月15日開催の様子

参加者 40名



令和8年度「中学生による職業体験」について

【目的】 参加する中学生が実際の仕事を見たり体験したりすることで、働くことや働く為に必要なことを知り、将来を考える上での情報収集を行うとともに、保護者にも子供の様子を見学していただき、進路選択に必要な情報を得てもらうこと。東松山地域におけるまちづくりの視点に立った「働く体験の場づくり」を促進することを目的とする。

また、体験後の本人・保護者の振り返りから、新たなニーズの掘り起こしを図る。

【日時】 令和8年8月24日(月) 9時00分～13時00分

【会場】 東松山市民文化センター 大会議室

【対象者】 市内中学校の特別支援学級を利用している中学生

市内在住で特別支援学校等へ通学している中学生、高校1年生

※ 原則として保護者が同伴できる方

【定員】 10名 ※申込者数 5名(令和8年7月16日時点)

【スケジュール】

9時00分 オリエンテーション

10時00分 職業体験

12時00分 振り返り学習 ～13時00分 終了

【協力企業】

株式会社ベルク ベルク砂田店様、エスピー食品株式会社様、株式会社しまむら アベイル高坂店様、野口精機株式会社様、伊田テクノス株式会社様

今後の進路支援連絡会議の活動について

- 定例会議の開催

8月5日、10月14日、12月9日、令和9年2月10日

- 令和8年度 キャリアデザインフォーラムの開催

- 令和8年度 中学生による職業体験の開催

- 両企画を通し、進路選択を補完する方法、情報提供のあり方、
次年度の企画について協議

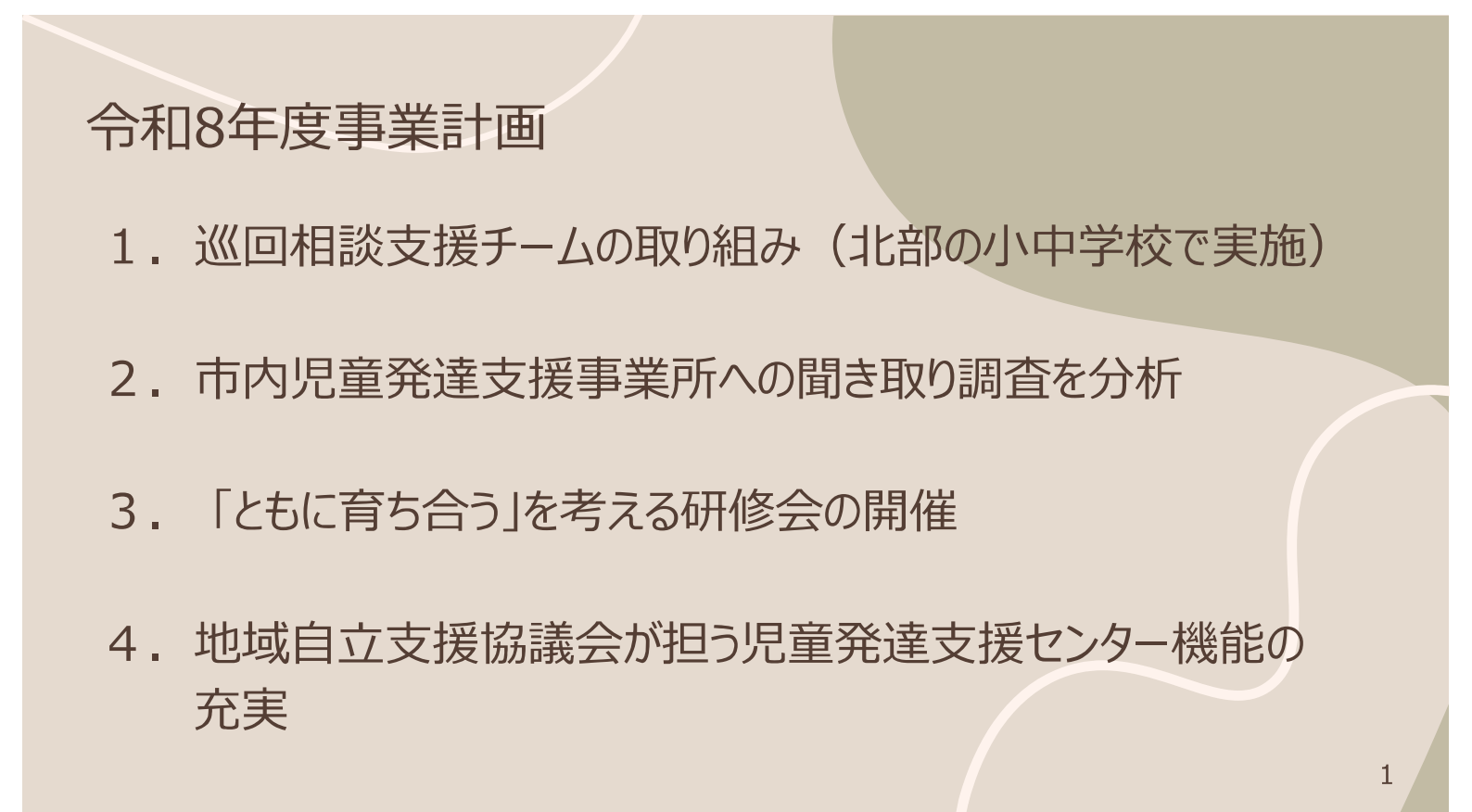
⇒キャリアデザインフォーラム 比企圏域での開催に向けて協議

障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議	
プロジェクト 設立の経緯	ノーマライゼーションのまちづくりを進める東松山市では、障害のあるこどもが一般の保育園・幼稚園・認定こども園・学校に通園・通学を希望し、選択することが多く見受けられるようになってきた。 このような現状の中で、東松山市地域自立支援協議会では、障害のあるこどもの「保育園・幼稚園・学校での生活」を支えるため、関係機関のさらなる連携について議論され、平成 20 年に連絡会議を設置し、関係者のネットワーク構築及び仕組みづくりに取り組むこととなった。
今年度の 目標及び進捗	今年度目標
	1. 巡回相談支援チームの取り組みを北部の小中学校で実施 2. 市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を分析 3. 「ともに育ち合う」を考える研修会の開催 4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能の充実
	<u>進捗</u> ○令和 8 年度事業実施状況について スライド資料参照



こどもの育ちと学びを支える連絡会議

令和8年7月29日（水）



令和8年度事業計画

1. 巡回相談支援チームの取り組み（北部の小中学校で実施）
2. 市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を分析
3. 「ともに育ち合う」を考える研修会の開催
4. 地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能の充実

令和8年度連絡会議活動予定・進捗状況

令和8年度 連絡会議活動予定												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会 全体会				○ 7/29							○	
事務局会議		○ 5/8	○ 6/17	○ 7/2	○	○	○	○	○	○	○	○
連絡会議					○						○	
チーム巡回関係		特別支援教育 コーディネーター 連絡会議 5/29	6/22 巡回相談 チームミーティング			← 1回目巡回 →	← 2回目巡回 →					→
アンケートの分析	←	内容分析 課題抽出	→									
研修会			←	研修内容検討 講師依頼	→	←	準備等	→	←	研修会実施	→	
児発センター 機能の充実	医療的ケア児 モニタリング		○ 6/18									
	強度行動障害の 実態・課題把握											
委員依頼		←		→								

2

1.巡回相談支援チームの取り組み

(1) チーム巡回相談の目的

- ①インクルーシブ理念の元、ともに育ち学ぶ子どもたちや、現場、保護者を、教育・医療・福祉などの他機関連携により、支援することを目的とする。
- ②子どもたちの育ちを共有しながら、現場が課題と感じる事項について、包括的に意見の交換が行えるようにする。
- ③みんなで支えるより良い仕組みづくりの構築をめざす。

(2) 巡回相談支援チームメンバー

- 特別支援学校（東松山・川島ひばりが丘）【特別支援教育コーディネーター】
- 医療機関（ハロークリニック）【公認心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士】
- 相談支援事業所（西部・比企地域支援センター、総合福祉エリア）【相談員】
- 障害者福祉課

3

令和8年度 チーム巡回予定表

学校名	月日	内容	時間
松山第一小学校	9月10日(木)	参観	13:35~14:20
		話し合い	14:45~15:45
松山中学校	9月17日(木)	参観	13:40~14:30
		話し合い	14:40~15:30
大岡小学校	9月24日(木)	参観	13:40~14:25
		話し合い	15:30~16:30
松山第二小学校	10月8日(木)	参観	13:30~14:15
		話し合い	14:30~15:30
新明小学校	10月15日(木)	参観	13:30~14:15
		話し合い	15:00~16:00
東中学校	10月22日(木)	参観	9:00~11:00
		話し合い	10:00~12:30
市ノ川小学校	10月22日(木)	参観	13:45~14:30
		話し合い	14:50~15:50
北中学校		参観	
		話し合い	

4

2.市内児童発達支援事業所への聞き取り調査を分析

※児童発達支援の提供すべき支援（児童発達支援ガイドラインより）

【本人支援】

障害のあるこどもの発達の側面から、「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」の5領域において、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにすることを大きな目標として支援。

【移行支援】

障害の有無に関わらず、全てのこどもが共に成長できるよう、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようにし、かつ、同年代の子どもとの仲間づくりを図っていくこと。

【家族支援】

家族が安心して子育てを行うことができるよう、様々な家族の負担を軽減していくための物理的及び心理的支援等。

【地域支援】

支援を利用するこどもが地域で適切な支援を受けられるよう、関係機関等と連携すること。また、地域の子育て支援力を高めるためのネットワークを構築すること。



令和7年度のアンケート調査では、【移行支援】【地域支援】に課題がみられた

5

3.「ともに育ち合う」を考える研修会の開催

アンケート調査で課題となった【移行支援】【地域支援】について学べる講習会の開催を予定している。

対象者：児童発達支援事業所、保育園、幼稚園など

6

4.地域自立支援協議会が担う児童発達支援センター機能の充実

＜児童発達支援センターの位置づけ＞

改正児童福祉法が令和6年4月より施行。

児童発達支援センターは、法的にも地域における障害児支援の中核としての役割を求められている。

＜児童発達支援センター等に求められる4つの中核機能＞

中核機能① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

中核機能② 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

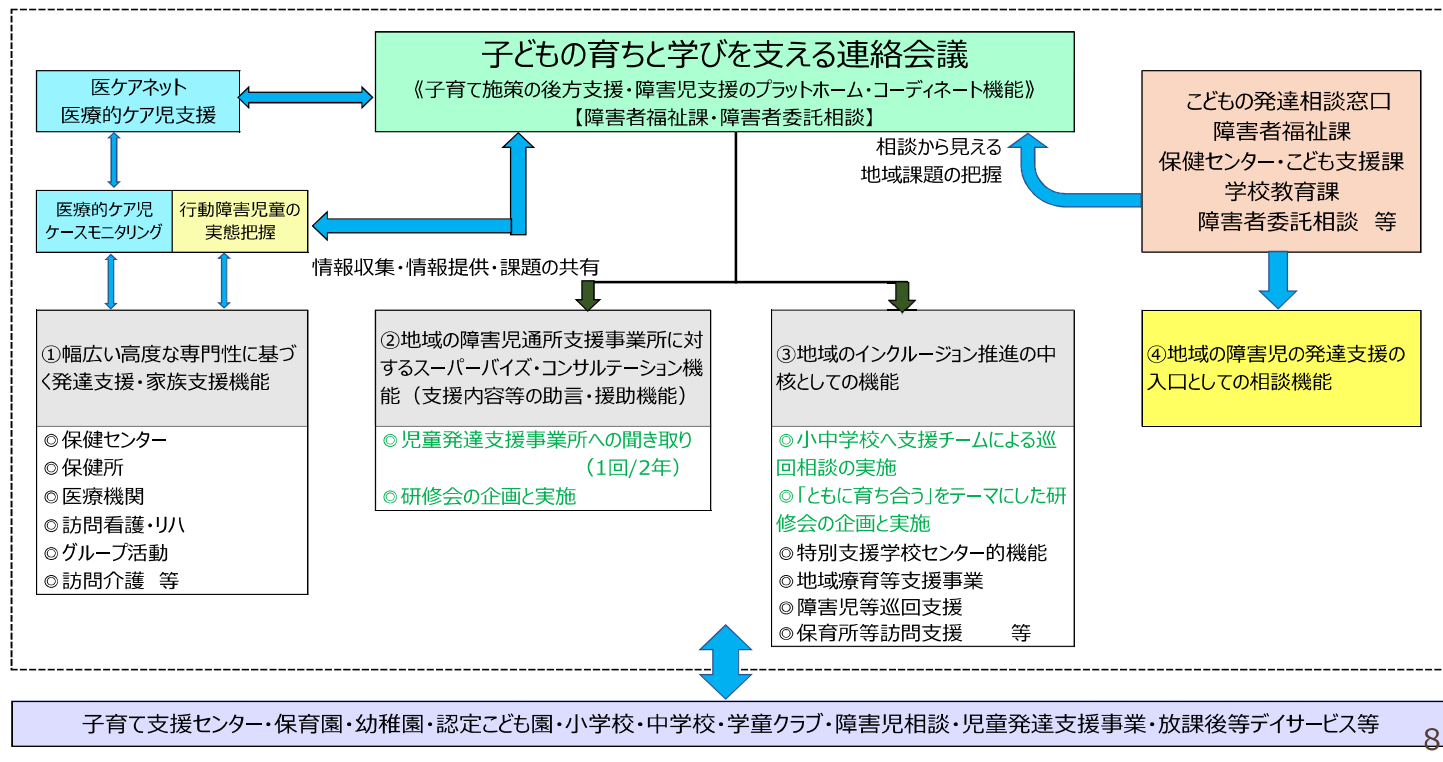
中核機能③ 地域のインクルージョン推進の中核機能

中核機能④ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

東松山市では、面的整備で児童発達支援センターの機能を確保している

7

《地域の資源を生かし、子育て支援の視点で、みんなでつくる児童発達支援センター機能》



○こどもの発達相談窓口の設置

令和6年4月1日より、電子フォームによる相談受付を開始している。

令和8年4月～6月の相談実績（5件）

健康推進課、こども支援課、障害者福祉課で連携し、必要な相談先につないでいる。

<相談内容 ケース①>

小2男児。母からの相談。学童から「怒りっぽい」との指摘あり。その都度注意するも改善みられず。発達に問題があるのではと心配になり相談に至った。

⇒こども家庭支援員（こども支援課）が母と面談を行うことになる。継続フォロー中。

<相談内容 ケース②>

3歳女児。母からの相談。他の子と比べて発語が遅いことが気になる。こだわりが強い。ASDかもしれないので、治療や接し方を相談したい。

⇒かかわりのあった保健センターから連絡。ハロークリニックを紹介したが躊躇する様子あり。一旦保健センターの心理相談で対応することになる。継続フォロー中。

医療的ケア児者を支えるネットワーク会議	
プロジェクト 設立の経緯	令和３年度より医療的ケア児者が適切な支援を受けられるよう、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場として「医療・福祉連携プロジェクト」としてスタートした。様々な関係機関が連携をして医療的ケア児者の生活が豊かになり、より生活しやすいまちづくりに取り組むために協議の場を継続すること、そこから見えてくる課題に対して地域で取り組むことを目的に「医療的ケア児者を支えるネットワーク会議」として設置された。
今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題	今年度の目標
	Ⅰ 現状確認リストを活用したモニタリングを行う。 Ⅱ 受け皿拡充に向けて取り組む。 Ⅲ リーフレットの作成。
	進捗
	Ⅰ.現状確認リストを活用したモニタリングについて ・第１回モニタリング(児童期) 2026年6月18日(木) 【出席機関】 事務局、訪問看護、保健所、委託相談、基幹相談、医療機関 教育センター、保育課、保健センター、社会福祉課、 放課後等デイサービス、地域支援センターたいよう 対象：児童期５名 ・現状確認リストをベースに参加機関とケースについて情報共有・意見交換を行った。 ・年齢相応の遊びの経験の場やその積み重ねの機会不足、母の就労時や兄弟出産時の受け入れ先の不足や難しさが話題としてあげられた。 ・近隣地域の医ケア児の集団保育での受け入れ状況や課題についても共有を行った。 Ⅱ.受け皿の拡充に向けた取り組みについて ・地域の状況を知っていただくことを目的に成人期モニタリングに川島ひばりが丘特別支援学校と進路支援連絡会のリーダーにオブザーバーとして参加について調整中。 Ⅲ.リーフレットの作成について ・医療機関から退院時に安心して自宅に戻る準備ができるような内容のものをイメージしている。そのため入院中のご家族の手に渡る方法を現在検討中。 ※防災・災害時等の内容については各相談員が個別具体的に対応する。 ・今後コアメンバー（保健所・保健センター・障害者福祉課・医療的ケア児等コーディネーター）にて内容など含め検討する予定。

医療的ケア児者を支える ネットワーク会議 【医ケアNET】

令和8年7月29日
東松山市地域自立支援協議会全体会

報告内容

- 医療・福祉連携プロジェクトから医ケア児者を支えるネットワーク会議(医ケアNET)への移行について
- 今年度の取り組みについて



医療的ケア児を支えるネットワーク会議【医ケアNET】について

発足の経緯

各都道府県、圏域及び市町村において

令和5年度末まで

- ①保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設ける
- ②医療的ケア児等に関するコーディネーターを配置



当プロジェクトが取り扱う領域

- 医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場の設置



これまでの成果

- ①協議の場の設置（モニタリング）
- ②コーディネーターの配置
- 研修開催（喀痰吸引・災害対策）
- 退院支援



これからの課題

- ・複雑に絡み合う機関の連携強化と制度への対応
- ・足りていない資源の確保
- ・リーフレットの作成
- ・親の離職の防止に資する取組
- ・緊急時、災害時の対応



連絡会としての取組

- ★モニタリング【協議の場】
- 受け皿の（受入れ事業所）確保
- その他、医療的ケア児者を取りまく環境の改善に資する取組



医療的ケア児を支えるネットワーク会議



【目的】

医療的ケア児・者、家族及び関係する支援機関等が、生活する上で多様な選択肢を持ち、適切に連携して生活しやすいまちづくりに取り組む

【方法】

ケースモニタリングを軸として個別ケースから見える地域課題に取り組む

【本人支援】

選択肢の増加 等



【家族支援】

介護疲労の軽減、離職防止等



具体的な取組



<令和8年度>

リーフレット作成、モニタリング



<3~5年度後を目途に>

就労、卒業後の選択肢の確保



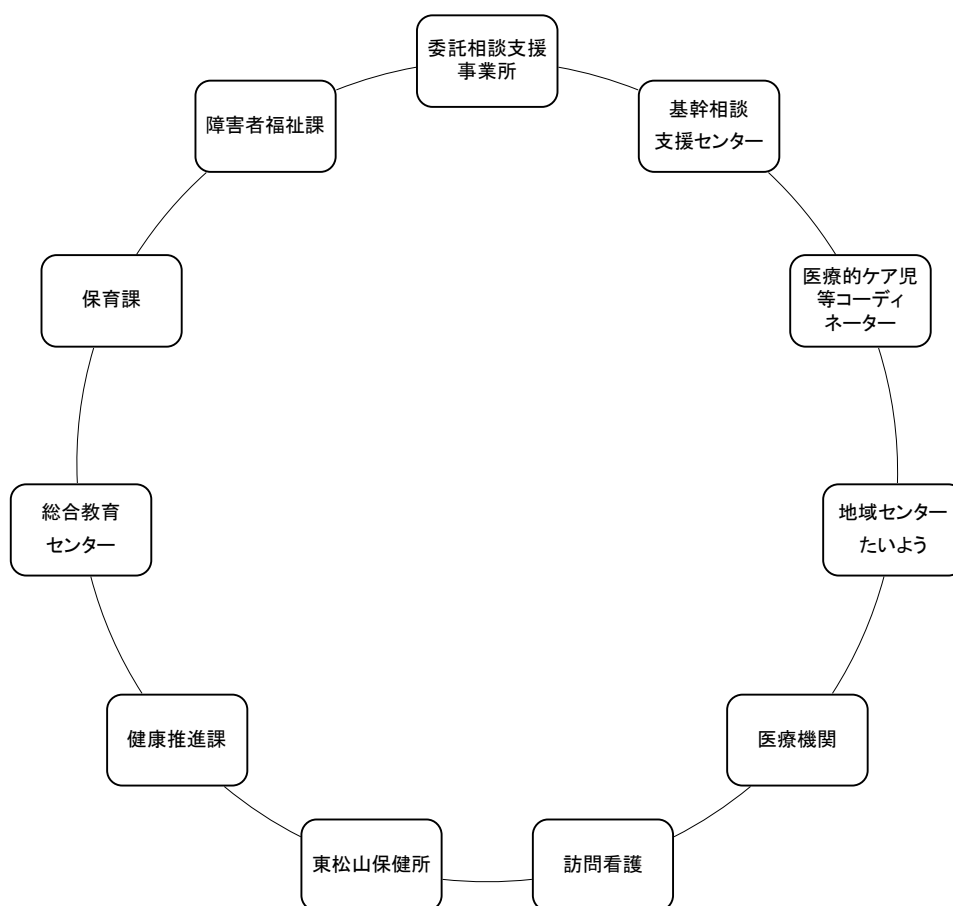
今年度の取り組み

- ・ケースモニタリング 年2回
 - 児童期1回 6月18日
 - 成人期1回 11月ごろ実施予定
- ・連絡会1回 1月～2月ごろ実施予定
 - 児童期・成人期で話題になっていることの共有
 - 次年度の取り組みについて

今年度の取り組み 児童期のケースモニタリング

- 対象者の現状確認と不足している資源や課題の抽出を行う。
- 埼玉県や近隣地域の動きを知る。

モニタリング参加機関



今年度の取り組み 児童期のケースモニタリング

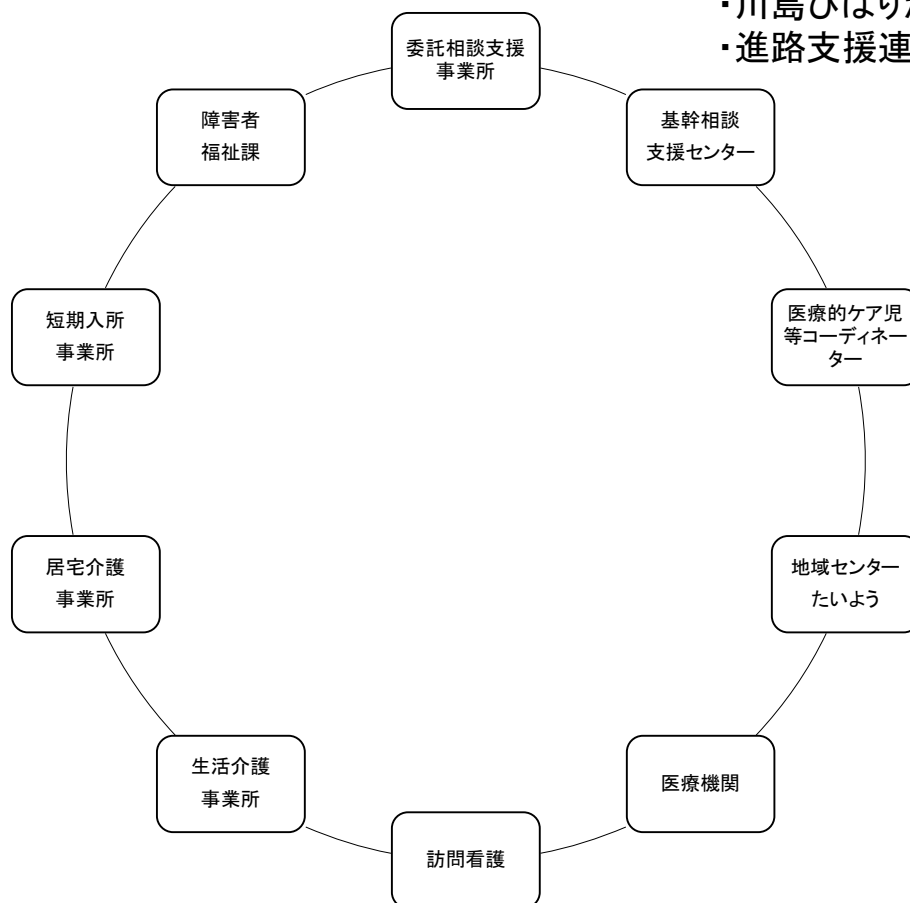
- 対象児童：5名（別紙資料参照）
- 共通する話題
- 年齢相応の遊びの経験やその積み重ねの機会の不足
- 母の就労時や兄弟の出産時の受け入れ先の不足や難しさ
- 近隣地域の医ケア児の集団保育での受け入れ状況や課題の共有

今年度の取り組み 成人期のケースモニタリング

- 対象者の現状確認と不足している資源や課題の抽出を行う。
- オブザーバーとして川島ひばりが丘特別支援学校や進路支援連絡会のリーダーの参加依頼。

モニタリング参加機関

オブザーバー参加依頼を調整中
・川島ひばりが丘特別支援学校
・進路支援連絡会リーダー



今年度の取り組み 受け皿の拡充に向けて

- ・成人期のモニタリングにオブザーバーとして川島ひばりが丘特別支援学校・進路支援連絡会リーダーへの参加について調整中。
- ・年1回川島ひばりが丘特別支援学校との情報共有の場の設定
- ・（進路支援連絡会と合同での実施を予定）

今年度の取り組み 地域への入り口支援

リーフレットの作成

- ・医療的ケア児等コーディネーターが中心になって作成
- ・退院の時にどこにつながったらよいかということを中心に作成を検討中
- ・対象はこれから地域につながる一歩目を踏もうとする方

退院後のおうちでの生活を応援します！

こんなお悩みはありませんか？

- ・ 退院後、何から始めたらいいの？
- ・ おうちの準備はどうしたらいい？
- ・ 利用できる制度を知りたい
- ・ 福祉サービスについて相談したい
- ・ とにかく不安…

そんなときは…

案

まずは保健センターへご連絡を！

保健センター（東松山市健康推進課）

TEL 0493-24-3921

おはなしをうかがいながら、相談支援事業所
や福祉課など必要な相談先におつなぎします。

<相談支援事業所>

- ・ 退院に向けた準備や相談
- ・ 福祉サービスの利用相談
- ・ 関係機関との連絡調整など

★医療的ケア児等

コーディネーター在籍

- ・ 西部・比企地域支援センター
- ・ 総合福祉エリア相談支援事業所

<障害者福祉課>

- ・ 障害者手帳、各種手当の申請
- ・ 福祉サービスの申請など

★医療的ケア児等コーディネーター

お子さんとご家族が、地域で安心して過ごせるよう、医療・福祉・学校などをつなぐ相談員です。

★医療機関の皆さんへ★

退院前カンファレンスにも参加させていただきます。お気軽にご相談ください。

地域の相談窓口

保健センター（東松山市健康推進課）
東松山市障害者福祉課
西部・比企地域支援センター
総合福祉エリア相談支援事業所

☎0493-24-3921
☎0493-21-1452
☎0493-81-5310
☎0493-21-5570



地域生活支援拠点等連絡会議	
プロジェクト 設立の経緯	地域生活支援拠点等とは、障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(①相談②体験の機会と場③緊急時の受入れ・対応④専門的人材の養成と確保⑤地域の体制づくり)を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するもので令和3年5月に事業開始となった。「東松山市地域生活支援拠点等連絡会議」を設置し、拠点事業の運営や課題について協議している。
今年度の 目標、成果 及び 次年度の課題	今年度の目標
	・拠点コーディネーターを中心とした連携体制の強化 ・障害福祉サービスにつながない人の実態調査 ・施設入所者の地域移行 ・親元からの自立に向けたひとり暮らしへの移行 ・当市で必要な「専門的人材」の明確化
	進捗
	○令和8年度地域生活支援拠点等連絡会議 令和8年7月3日(月) ・地域生活拠点等利用者リストの進捗 拠点登録相談支援事業所を中心に、対象者名簿を随時見直し、真に必要とする支援を整理しながら緊急時支援のマッチングを進めている。(登録者:ショートステイ 27 名、行動障害 15 名) ・R8.4 月緊急時支援の実績報告 緊急時への備え、受入れ時の対応と必要な情報等について、急場をしのいだ後の対応についての3つの段階に整理して振り返りを行った。 ・R8 年度の取り組みについて サービスにつながない人の実態調査について 通所系サービス事業所への聞き取り調査委について(アンケート+訪問) 入所支援施設の地域移行等意向確認担当者との協議について 親元からの自立に向けたモデルケースの支援について ⇒各議題について協議した。 実態調査は調査を終えた。現状では拠点等に登録する対象者は見られないものの、委託相談につながる等でフォローアップの対象となっている。 通所系サービス事業所への聞き取りでは、各事業で求められる役割の確認や課題の共有を進めた。 話題も多岐に渡るため今後の会議の持ち方を検討する必要があると考えられた。 ・本市拠点事業の目指す姿の検討・共有について 本件の概要説明 ロジックモデルの概要説明

地域生活支援拠点等連絡会議

令和8年度取り組みの進捗について
2026年7月29日【水】
於 総合会館

東松山市地域生活支援拠点等(面的整備)

令和8年7月

地域で安心して暮らすために

※今後、拠点事業所として登録後に事業所名を表記します。

サービス等利用計画
を通して拠点等支援が
提供されます

＝緊急時の訪問対応など＝

安心して在宅生活を送ることが
できるように支援を行います

地域定着支援

西部・比企地域支援センター
総合福祉エリア相談支援事業所
比企生活支援センター

自立生活援助

西部・比企地域支援センター

＝相談支援(計画)＝

拠点機能に関するサービスの
利用について相談していきます

計画相談・障害児相談

西部・比企地域支援センター
総合福祉エリア相談支援事業所
比企生活支援センター
相談支援センター雑草

＝緊急時の一時的な住まいの場と支援＝

介護が難しくなってしまった場合など
緊急一時的な預かり支援を行います

短期入所

あじさい
「ソーシャルインク
ルーホーム東松山」
グラン・カッサ
ショートステイ・すばる
愛弘園
あかつき園

**障害者生活支援
センター**

いわはな

＝体験の場＝

グループホームやひとり暮らしの
体験を行います

共同生活援助

あじさい
「ソーシャルインク
ルーホーム東松山」
グラン・カッサ

自立体験ステイ事業

いわはな

＝行動障害児者への緊急時支援＝

在宅で暮らす行動障害のある方へ
緊急的な支援を行います

**緊急コール支援事業
(行動援護)**

総合福祉エリア
FSC鼎

◇相談支援事業所連絡会では、拠点等に関するサービス利用者の支援について検討を行います。

◇地域生活支援拠点連絡会では、拠点等機能の課題解決や拠点に関するサービス調整等を行います。

【連絡会議年間予定】 年 3 回（7 月・11 月・2 月）

第 1 回連絡会議 R 8. 7. 3 実施

- ・ 緊急時支援が想定される利用者リストの進捗
登録者：短期入所 27 名 行動援護 15 名 ⇒適宜要見直し
- ・ R 8. 4 月緊急時支援の実績報告
本人が受傷（骨折）している状況で、在宅に戻せない方の緊急時支援
- ・ R 8 年度の取り組みについて
各取り組みの進捗状況報告
- ・ 本市拠点事業の目指す姿の検討・共有について
取組の目的や背景の共通認識

令和 8 年度の取り組みについて

①拠点コーディネーターを中心とした連携体制強化

- ・ 通所系事業所にアンケート実施・15 事業所を訪問しヒアリング
- ・ 相談支援事業所連絡会議、行動援護連絡会、グループホーム連絡会へ参加

②障害福祉サービスに繋がっていない人の実態調査

療育 A 以上かつ 40 歳以上の者 1 名と、療育 B 以下で 70 歳以上の親と二人暮らしの者 5 名 対象者計 6 名

⇒実態調査済・拠点登録の必要性はなかった。もう 1 年継続実施予定

③施設入所者の地域移行

市内 3 事業所の地域移行意向確認等担当者を訪問し意見交換を実施済

令和 8 年度の取り組みについて

④親元からの自立に向けたひとり暮らしへの移行

【モデルケース：30代・男性・知的障害】

障害者生活支援センターいわはなを活用し、一人暮らしの練習を開始

⑤当市で必要な「専門的人材」の明確化

各サービス、各事業所の困りごとや、当事者・保護者の悩みや心配事など
地域の実情を踏まえた上での検討

本市拠点事業の目指す姿について

- 地域生活支援拠点等事業の機能や役割は明示されているものの、東松山市の目指す姿を整理したい
誰のなにを、どうしたいのか。それをやってどうなるのか。
ヒアリング等の実働と理念的な整理を並行して進行中



目指す姿を共有したい

下期に向けて

○重点的取組み

- 入所支援施設の地域移行等意向確認者との協議
- 拠点コーディネーターを中心とした連携強化
- 親元からひとり暮らしへの移行の取り組み

東松山市地域自立支援協議会 全体会

医療的ケア児を支えるネットワーク会議【医ケア NET】

からの地域課題について

『同年代の友達と一緒に過ごしたい』

児童期ケースモニタリングより

幼児期3名。障害やそれぞれの状態像は違うものの、下記のことが共通する話題としてあった。

- ・医療的ケアがあっても同年代の友達と一緒に過ごしたい

今回は『同年代の友達と一緒に過ごしたい』ということに焦点を絞って必要なこと、工夫できそうなこと、それに向けた準備などについて一緒に考え、これからの取り組みにつなげていきたい。

【医療的ケア児を取り巻く環境について】

医療の進歩で救える命が増えた一方で医療的ケアを必要としながら在宅生活を送る子供たちが増えている。

医療機関からの退院時にご家族がわが子の医療的ケアの手技を覚えて退院。

退院当初は命を守るため医療（訪問看護など）の支援がベースとなることが多いが、体調や生活が安定してくると徐々に視野が広がって色々な人との関りの場や遊びの場を求めるようになる。

その一方で、医療的ケア児を受け入れることには課題も多いのが現状。（医療的ケアができる人の配置、その人のバックアップ体制作り、受け入れ可能な人数やハード面…）

【事例】

3歳児のお子さん

医療的ケアの状況

- ・胃ろう：1日3回のミルクの注入
- ・夜間だけ人工呼吸器装着

※ご家族（主に母）が対応

運動面

- ・移動は車いす
- ・室内は四つ這いで移動可

認知面

- ・簡単な日常会話 OK

